

イベント情報（9～10月）

詳細は、当館ホームページまたはお電話にてお問合せください。

	イベント名	時間	概要	申込期間
9 / 6（土）	里山体験教室 「ため池のかいぼりをしよう」	10:00～12:30	池の水を抜き、底に溜まった泥を取り除く「かいぼり」で水辺の生きものを観察。	8/6(水)～19(火) 正午
9 / 23（火祝）	みどり森ガイドウォーク	11:00～12:00	みどり森の季節ごとの見どころをインタープリターがご案内します。	当日受付
10 / 4（土）	大人の自然観察会 「秋の植物観察」	9:30～12:00	植物観察をしながら生き物との関わりについて考えます。初心者向け、中学生以上。	9/4（木）～
10 / 11（土）	里山体験教室 「下草刈りとピザ作り」	10:00～14:30	雑木林の管理作業のひとつ、下草刈りを体験。アズマネザサなどの草木を刈ります。	9/11(木)～23(火) 正午
10 / 18（土）	みどり森ガイドウォーク	11:00～12:00	みどり森の季節ごとの見どころをインタープリターがご案内します。	当日受付

【イベントのお申込みについて】

- ・お申込みは、HP内「イベント情報」の専用フォームからお願いします。（お電話でも受付いたします。）
- ・事前申込のイベントは、原則実施の1か月前から受付開始です。

30周年記念の催し予定

■30周年記念イベント

30周年記念として、みどり森で遺していきたい生きものの生息状況を調べる市民参加型の一斉調査イベントを計画しています。詳細は後日ホームページ等にて発表します。

	イベント名	時間	概要	申込期間
1 / 31（土）	30周年記念イベント 「チョウの冬越し一斉調査」	10:00～12:00	エノキの木周辺で越冬するチョウの幼虫を探します。オオムラサキは見つかるか？	12/27(金)～
3 / 1（日）	30周年記念イベント 「カエルの卵塊一斉調査」	10:00～12:00	この谷戸に来る二種類のアカガエルの産卵数の調査を行います。見分けられるかな？	2/1(日)～

■30周年記念グッズ制作進行中！

「みどり森の遺したい生きもの」をテーマにグッズの作成を進めています。雑木林の維持のために伐った木を使い、日常的にみどり森の生きものを思い出してもらえるように、小さめのマグネットとしました。

もちろん住んでいる生きものは全て大切にしたいのですが、今回はとりわけ環境を代表する「ヒメザゼンソウ」「ヤマアカガエルとニホンアカガエル」「オオムラサキ」「カヤネズミ」を選定しました。

＜マグネット作品例＞



かわいいイラストでメモやチラシなどをベタっ♪

さいたま緑の森博物館 利用案内



狭山丘陵の北西部に位置する、里山の自然そのものを展示とした野外博物館です。

HP

https://saitama-midorinomori.jp/
※ QRコードから開けます

開館時間

9:00～17:00

休館日

月曜日(祝日の場合は開館し翌日が休館)
祝日の翌日、年末年始

所在地

埼玉県入間市宮寺889-1

電話・FAX

04-2934-4396

アクセス

公共交通機関をご利用の場合、
小手指駅南口より西武バス「宮寺西」行き
または「金子駅入口」行き乗車約25分
「荻原バス停」下車、徒歩約10分
※駐車スペースに限りがありますの電車・バスをご利用ください。

緑の森博物館の 利用ルール

緑の森博物館では、以下の8つのルールを守って楽しく過ごしていただくようお願いしています。

① 植物や野鳥、小動物、昆虫等の生きものをむやみにとったり、傷つけたりしないでください。

② 他から持ち込んだ動植物（外来種）を放さないでください。

③ 原則として広場や観察路以外の場所に入らないでください。

④ 犬などのペットを放さないでください。
（フンの後始末もしっかりと行いましょう）

⑤ 車道以外の場所には、自転車やバイクで入らないでください。

⑥ バーベキューや花火など火を使わないでください。

⑦ ゴミは持ち帰りましょう。

⑧ ラジコンやドローンは使わないでください。

2025年7月発行

さいたま緑の森博物館 指定管理者：株式会社自然教育研究センター

さいたま緑の森博物館ニュースレター

はくぶつかんだより30周年記念号（No.58）

Saitama Midori-no-mori Nature Park

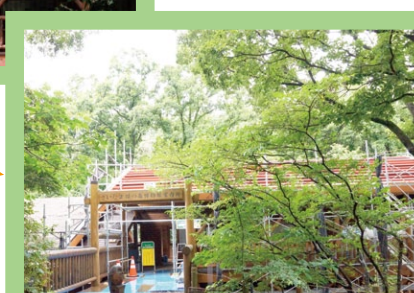
さいたま緑の森博物館は7月1日で開館30年を迎えました。



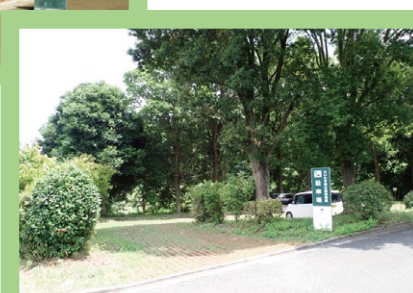
ただいま改修工事中。
10月からリニューアルオープン予定です。



最初は駐車場の向こう側まですっきり見えたんですね。



～案内所今昔～



～駐車場今昔～



大エノキの枝が横に広がり、エノキらしい樹形になりました。



30年前に整備した畦畔がすっかり草で覆われています。



～展望広場今昔～



～西久保今昔～

「さいたま緑の森博物館」は1940～1970年代に起こった狭山丘陵の自然保護運動の末、当時の知事が埼玉県エリアの85ヘクタールを博物館にすることとしました。この「さいたま緑の森博物館」という名称や方針は、保護運動の中心であった『狭山丘陵の自然と文化財を考える連絡会議』の方々が埼玉県に提案をした「雑木林博物館構想」がもととなっています。この地域の自然を残したいという当時の強い思いがこの名称に詰まっていると感じます。

わたしたち(株)自然教育研究センターはこの博物館の歩みのうち半分の15年、指定管理者として関わってきました。この間の私たちの取り組みとしては、

- ①狭山丘陵の自然や雑木林に親しむイベントの実施
- ②ボランティア団体「みどり森ボランティア会」の立ち上げとサポート（フォロー、スキルアップ、フォローアップ）
- ③企業や団体、学校とタイアップしながら狭山丘陵の雑木林を保全する活動の実施

を行ってきたことです。

狭山丘陵の自然に親しみ、雑木林を保全する活動を推進することにより、狭山丘陵の自然を守っていきたいと思う人を増やすことが出来ているのではないかと考えています。

これからも「さいたま緑の森博物館」で狭山丘陵の自然と人の歴史を残していけるように様々なことにチャレンジしていきたいと思います。

さいたま緑の森博物館 統括責任者 青野 倫行（株式会社自然教育研究センター）

開館から30年

みどり森の歩み と 人のかかわり

さいたま緑の森博物館(みどり森)の代表的な景観は、クヌギ・コナラを中心とした雑木林と谷戸に広がる湿地です。それは人々の生活が薪や落ち葉を利用して、雑木林と結びついていることで受け継がれてきました。

この景観を未来に引き継ぐため、この30年で行政、ボランティア、近隣住民、一般利用者など多くの人が関わり取り組んでいます。

それらを2つの景観「雑木林」「谷戸の湿地・田んぼ」と生物多様性という側面から紹介します。

雑木林博物館基本構想とは？

さいたま緑の森博物館の大元となった構想で、「今ある雑木林や湿地を、かつて人々の生活が雑木林と結びついて営まれていたように人々が利用・活用する形で保存する」ことが大きな特色です。この構想をそのまま活かす形で埼玉県によって緑の森博物館は開設されました。

1986 雑木林博物館構想

1990 緑の森博物館（仮称）基本構想

1995 さいたま緑の森博物館開館
(人間市域開館)

2005 博物館指定管理制度へ移行

2012 さいたま緑の森博物館保全活用協議会設置

2013 さいたま緑の森博物館全面開館
(所沢市域開館)

★開館30周年

1995年

2025年

人が関わることで自然環境が守られ、 里山の景観が受け継がれていく！



ボランティアパワーと里山保全

7団体！

みどり森で雑木林の管理作業などを行っているボランティア団体が活動地で適切かつ定期的な手入れをすることは、良好な里山の景観と環境を保つとても大切な力となっています。

ボランティアの方がたを見ていると、どの団体も積極的で、狭山丘陵の自然豊かな場所での活動が喜びや楽しみとなっていることが感じられます。これは、雑木林と人との新たな結びつきといえるでしょう。

一方で、団体の多くは担い手不足で活動の継続が課題です。里山保全のために、今後はみどり森がボランティア団体と一般の人を繋ぐことが必要だと考えています。



里山の景観

雑木林

萌芽更新伐採で雑木林再生へ



行政

萌芽更新とは木を伐ってその切り株から再生した芽を育て、15年～20年で伐ることをくり返す雑木林の管理方法です。開園以来、県はエリアを区切って計画的に更新伐採を進めています。

しかし、長く放置されていた林では伐採しても芽が出ないことがよくあります。その場合は、新たに苗木を植樹して雑木林を再生させました。

マンパワーが必要な下草刈り



行政 ボランティア

萌芽更新では木が充分成長するまで下草刈りなど管理作業が欠かせません。更新地の草刈りなどの管理作業は県から委託された業者によって行われる部分もありますが、「森林サポータークラブ」「みどり森ボランティア会」など多くのボランティア団体の活動にも支えられています。



ササ刈りが必要な若い林



萌芽更新した木の周りの草を刈るボランティアさん

雑木林文化の継承



イベント参加者・学校団体など

博物館のイベント「里山体験教室」では、雑木林の管理作業（下草刈り・落ち葉かき・伐採）を体験します。

人々の生活が雑木林と結びついていた頃、雑木林の資源（薪や落ち葉など）をどう利用してきたのか、その知恵や技術を学べます。地元の宮寺小学校では雑木林体験が授業の一環にもなっています。雑木林への親しみや愛着を育み、文化の継承につながることを期待されます。



ナラ枯れ発生！ 雑木林の危機か



行政 ボランティア 団体 など

2020年、狭山丘陵にカシノナガキクイムシが媒介する菌によるナラ枯れの発生が確認され、みどり森の敷地でも多くのコナラ、クヌギが枯れました（2025年現在、被害はピークを過ぎ減少）。

木が枯れると、地表まで光がさし草木が一気に成長しますが、コナラやクヌギは他の低木類の勢いに負け、残念ながら元の雑木林には戻りません。以前からイベント参加者や地元小学校児童たちとどんぐりの実生苗を作る取り組みを続けていましたが、今後はナラ枯れ跡地に植樹する苗木づくりが益々重要になっています。



里山の景観

谷戸の湿地・田んぼ

湿地のまま維持する



みどり森スタッフ ボランティア

大谷戸湿地はアシやオギに覆われた湿地です。カヤネズミなどの貴重な動植物の生息場所であるため、アシ原の湿地として維持しています。

毎年3月に行うヨシ刈りはそのための管理作業で、スタッフ総出で集草や流路の整備、周りから入り込むツルなどの刈りはらい等を行っています。



谷戸田でのお米作り



イベント参加者 団体 地域住民など

西久保湿地と糍谷八幡湿地には谷戸を利用した田んぼがあります。西久保は開館当初は休耕田でしたが、地元有志らにより田んぼが復活しました。糍谷八幡も地元の保存会が中心となり、田んぼと周囲の雑木林合わせて維持管理にあたっています。どちらも地域住民の力でよみがえった景観と言えます。西久保湿地は「宮寺二本木八景」に、糍谷八幡湿地は「とことこ景観賞」に選ばれています。



現在田んぼは、「食育体験教室 田んぼでお米を作ろう」というイベントのほか、地元の小学校のお米作りの授業や、大学の実証考古学の田んぼとして研究にも利用されています。

生物多様性や希少種の保全のための取り組み



研究機関 みどり森スタッフ ボランティア ほか

みどり森が位置する狭山丘陵北西部は、丘陵のなかでも動植物の種類が豊富で比較的自然度の高いエリアですが、姿を消したり限られた場所で細々と生きている動植物もあります。生物多様性や希少種保全のため、以下のような活動を関係者やボランティア団体と協力して行っています。

- ・絶滅危惧種ヒメゼンソウ自生地保全のための草刈り、整地作業
- ・トウキョウサンショウウオ保全のための産卵水域調査、環境整備活動
- ・カヤネズミの生息域保全のための草刈りや越冬巣の調査
- ・激減したリンドウなどの育苗、移植活動
- ・アカマツ林再生を目指したマツの育苗、移植、整地活動

人が関わることで豊かになるみどり森は「人も自然の一部」と実感できる場です。この素晴らしい里山の景観を引き継げるよう、私たちは力を合わせて取り組んでいきたいと思ひます。